

チャの炭疽病

1 病原菌の特徴

- (1)チャ炭疽病は糸状菌(カビ)が原因で起こるチャの代表的な病気で、ほとんどの茶園に発生します。
- (2)病原菌(*Colletotrichum theae-sinensis* Yamamoto)の生育適温は25～30℃の範囲です。新葉が成葉化する頃に発病し、赤褐色の大型病斑ができます。
- (3)病斑上に形成された胞子は雨によって周囲に飛散し、新葉のうぶ毛から植物体に侵入することにより感染します。越冬した病葉は、さらに翌年の伝染源となります。

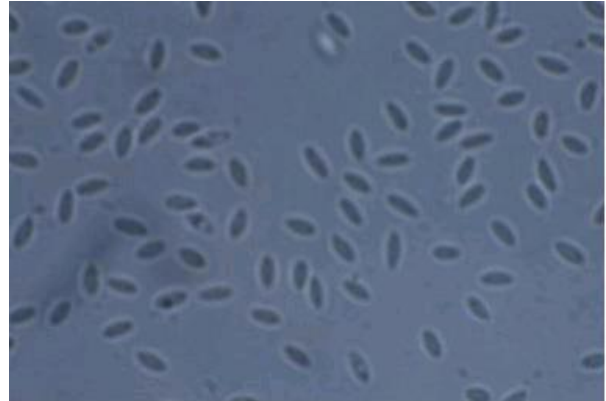


写真1 炭疽病菌の分生胞子



写真2 初期病斑



写真3 典型的な病斑



写真4 古い病斑

2 被害の様子

発病葉の落葉あるいは葉の機能低下により樹勢が衰えます。潜伏期間が20～30日なので、一・二番茶芽が感染しても直接収穫に影響しませんが、樹勢の衰えは翌年以降の生産に影響を及ぼします。



写真5 多発茶園



写真6 ‘さやまかおり’における多発



写真7 ‘ふくみどり’における多発

3 発生について

- (1) 二番茶摘採後7月下旬から秋期にかけて病葉が増加します。
- (2) 茶芽の開葉期に雨が多いと感染しやすくなり発生が助長されます。
- (3) ‘さやまかおり’、‘やぶきた’、‘こまかげ’、‘ふくみどり’は発生しやすい品種です。
- (4) 一番茶摘採後の6月下旬頃、摘み残した成葉に新たな病葉の発生が見られますが、極めて少なく、二番茶摘採後の7月下旬から秋季にかけて病葉が増加します。

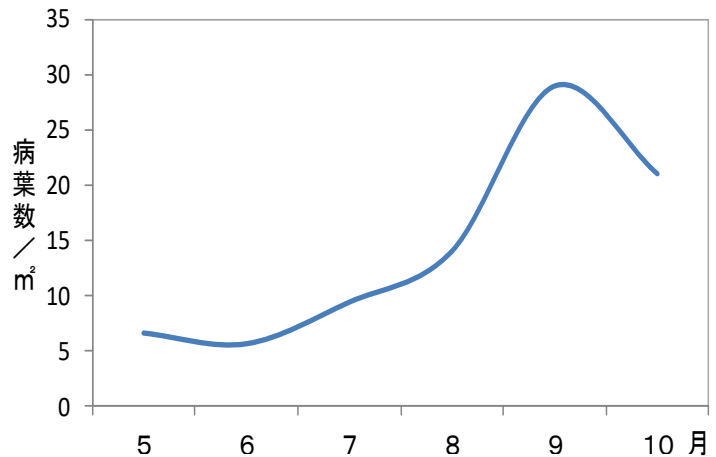


図1 炭疽病の発生推移

4 防除時期と防除方法

(1) 耕種的防除

ア 通風、日当たりをよくし窒素質肥料を偏用しないようにします。

イ 一番茶収穫後に浅刈りを実施(この場合は二番茶は摘採できなくなります。)し、8月上旬に三番茶芽の上位3葉を整枝します。

ウ または、二番茶摘採後の8月上旬までに浅刈りを実施します。

(2) 薬剤防除

開葉期とその1週間後に1回ずつ散布すると効果が高まりますが、薬剤の使用回数に注意しましょう。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県茶業研究所栽培担当 TEL04-2936-1351

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県